

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3987352号

(P3987352)

(45) 発行日 平成19年10月10日(2007.10.10)

(24) 登録日 平成19年7月20日(2007.7.20)

(51) Int. Cl.	F I
B 6 5 D 67/02 (2006.01)	B 6 5 D 67/02 H
B 6 5 D 5/04 (2006.01)	B 6 5 D 5/04
B 6 5 D 5/50 (2006.01)	B 6 5 D 5/50 C
B 6 5 D 75/62 (2006.01)	B 6 5 D 75/62 B

請求項の数 4 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2002-27054 (P2002-27054)	(73) 特許権者	000000228
(22) 出願日	平成14年2月4日(2002.2.4)		江崎グリコ株式会社
(65) 公開番号	特開2003-231553 (P2003-231553A)		大阪府大阪市西淀川区歌島4丁目6番5号
(43) 公開日	平成15年8月19日(2003.8.19)	(73) 特許権者	000002897
審査請求日	平成16年7月23日(2004.7.23)		大日本印刷株式会社
			東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
		(74) 代理人	100062144
			弁理士 青山 稔
		(74) 代理人	100079245
			弁理士 伊藤 晃
		(72) 発明者	青木 淳二
			大阪府大阪市西淀川区歌島4丁目6番5号
			江崎グリコ株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 容器ホルダおよび当該ホルダを備えた容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

円板状の底部(21)を有する収容本体(20)と、周縁にフランジ(11)を有し収容本体の上部に取り付けられる蓋材(10)と、を備えた容器(1)に対して、その外周側に連結される容器ホルダ(30)であって、

当該容器ホルダ(30)は、多角形の筒状に構成されていて、

当該多角形を構成する周壁部(31a～31d)には、上記円板状底部の外周部を保持する底部ホールド開口(34a、34c)、および上記フランジの外周部を保持する上部ホールド開口(32a～32d)が形成されていて、

上記各開口が収容本体(20)および蓋材(10)を保持することで、容器を蓋材で閉じた状態が維持され、

上記周壁部の下端に、容器ホルダ内側に折り返される折返フラップ(33a、33c)が、折野を介して連設されており、上記底部ホールド開口(34a、34c)が当該折返フラップに形成されていることを特徴とする、容器ホルダ。

【請求項 2】

多角形筒状を構成する各周壁部間の境界稜線において、ホルダ上端部から所定長さに渡って、易破断領域(35a～35d)を設けたことを特徴とする、請求項1記載の容器ホルダ。

【請求項 3】

円板状の底部(21)を有する収容本体(20)と、周縁にフランジ(11)を有し収容本体の上部に取り付けられる蓋材(10)と、収容本体の外周側に連結される容器ホルダ(30)と、を備え

た容器であって、

上記容器ホルダ(30)は、多角形の筒状に構成されていて、

当該多角形を構成する周壁部(31a～31d)には、上記円板状底部の外周部を保持する底部ホールド開口(34a、34c)、および上記フランジの外周部を保持する上部ホールド開口(32a～32d)が形成されていて、

上記各開口が収容本体および蓋材を保持することで、容器を蓋材で閉じた状態が維持され、

上記容器ホルダの周壁部の下端に、容器ホルダ内側に折り返される折返フラップ(33a、33c)が、折罫を介して連設されており、上記底部ホールド開口(34a、34c)を当該折返フラップに形成したことを特徴とする、容器。

10

【請求項4】

上記容器ホルダの多角形筒状を構成する各周壁部間の境界稜線において、ホルダ上端部から所定長さに渡って、易破断領域(35a～35d)を設けたことを特徴とする、請求項3記載の容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、アイスクリームやパフェ等を収容した状態で販売される容器に関する。さらに詳しくは、そのような容器の外周に固定される容器ホルダに関する。

【0002】

20

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】

例えば、プリンを収容して販売するカップ入りプリンでは、内容物たるプリンの上面は平坦であるので、当該カップの蓋材は、カップの上端縁にヒートシールしたフィルム材等で構成することが可能である。内容物がゼリー等である場合も同様である。

【0003】

ところが、トッピングアイスやパフェを収容するカップ容器等、ドーム状の蓋材が必要となる場合には、当該ドーム状蓋をカップに対してヒートシール連結することは困難であるので、凹部と凸部とによる弾性係合等を利用して、蓋材をカップに連結し、シール紙を貼り付けて封止すること等が行なわれている。

【0004】

30

本発明は、そのようなシール紙を廃止するとともに、流通途中における容器の破損防止や、外光からの内容物の保護、および広告のための印刷領域の確保を可能ならしめる容器ホルダを提供することを課題としている。

【0005】

【課題を解決するための手段・作用・効果】

本発明は、上記課題を有効に解決するために創案されたものであって、以下の特徴を備えた容器ホルダを提供する。

【0006】

すなわち、本発明の容器ホルダは、「円板状の底部を有する収容本体」と「周縁にフランジを有し収容本体の上部に取り付けられる蓋材」とを備えた容器に対して、その外周側に連結される。この容器ホルダは、多角形の筒状に構成されていて、当該多角形を構成する周壁部には、「上記円板状底部の外周部を保持する底部ホールド開口」および「上記フランジの外周部を保持する上部ホールド開口」を形成している。容器ホルダの各開口が収容本体および蓋材を保持することで、容器を蓋材で閉じた状態が維持される。

40

【0007】

上記構成を有する本発明の容器ホルダを使用すると、ホルダ自身が容器の収容本体と蓋材とを連結する機能を有するので、従来必要であった蓋部材封止用のシール紙を省略することができる。

【0008】

また、それだけでなく、筒状の容器ホルダが容器を外周側から保護するので、外光から内

50

容物(アイスクリームやパフェ等)を保護することができ、酸化して味が落ちることを防止できる。さらには、容器ホルダが保護部材となって、輸送中に容器が破損するのを防止したり、商品広告等のための印刷面積を確保できるといった利点がある。

【0009】

なお、本発明の容器ホルダは、多角形の筒状体であるので、内部に収容される容器が円筒状である場合には、筒状体のコーナ部に隙間が生じる。この隙間を利用してスプーン等の付属物を収容することも可能となる。

【0010】

【発明の実施の形態】

本発明の実施形態を、添付の図面を参照して以下に詳細に説明する。

10

【0011】

容器の構成

図1は、本発明の容器ホルダが適用される容器を示している。この容器1は、例えば、アイスクリームやパフェ等を収容した状態で販売される。容器1は、アイスクリーム等を収容する収容本体20と蓋10とで構成される。

【0012】

収容本体20は、円板状の底部21を備え、これにより自立することができる。一方、蓋10は、ドーム状であって、その周縁にフランジ11を有する。蓋10は、収容本体20の上部フランジ22において、収容本体20に連結される。

【0013】

20

蓋10は、フランジ11のやや内側に不図示の係合部を有していて、当該係合部と収容本体20の上部フランジ22とが弾性係合することにより、収容本体20に連結される。また、後述するように、容器ホルダ30(図2参照)によって収容本体20と蓋10とが連結されるので、蓋10は、上部フランジ22の上側に単に載せられるような構成としてもよい。

【0014】

容器ホルダの構成

図2は、容器ホルダ30の斜視図を示している。容器ホルダ30は、四角筒状に構成されていて、4つの周壁31a~31dを備える。各周壁の上部には、ホールド開口32a~32d(ホールド機能を有する開口)が形成されている。これらの開口は、容器の蓋10のフランジ周縁をホールドするものである。

30

【0015】

対向する2つの周壁31aおよび31cの底部には、折罫を介して、折返フラップ33aおよび33cが形成されている。折返フラップ33aは、図2中矢印Aで示したように、ホルダ内部へと折り返すことができる。対向する反対側の周壁31cに形成した折返フラップ33cについても同様である。折返フラップ33aおよび33cには、容器の蓋10の収容本体の底部周縁をホールドするホールド開口34aおよび34cが形成されている。

【0016】

折返フラップ33aは、図3の一部破断図に示したように、ホルダの内側へと折り返されて、そこに形成したホールド開口34aが収容本体底部21の周縁をホールドする。なお、図3では、図示を明瞭にするため、反対側の折返フラップ33cは省略している。

40

【0017】

図4の中央縦断面図から分かるように、蓋10のフランジ11が上部ホールド開口32a~32dに保持され、収容本体20の円板状底部21が底部ホールド開口33a、33cに保持される。すなわち、容器ホルダ30によって、収容本体20と蓋10とが連結状態に維持される。したがって、容器1の収容本体20と蓋10との連結をホルダ30のみによって達成することも可能で、その場合には、収容本体20および蓋10に両者を係合させる手段を設けることなく、単に蓋10を容器20上に載置するような構成とすることも可能である。

【0018】

図示の例では、下方側のホールド開口34a、34cを折返フラップ33a、33cに対して形成しているが、このような折返フラップを設けることなく、上部側のホールド開口32a~32

50

dの場合と同様に、下方側においても、周壁面に直接ホールド開口を形成するようにしてもよい。図示の例のように、折返フラップ33a、33cを設けて、そこに底部ホールド開口34a、34cを設けた場合には、容器1の頭部を筒状のホルダ30の下側から挿入することで、ホルダ30を簡単に容器に取り付けることができるという利点がある。

【0019】

また、容器ホルダとして、五角形や六角形の多角筒を採用する場合には、適当な任意の壁面に対して、ホールド開口を備えた折返フラップを設けることが可能である。

【0020】

易破断領域

各周壁31a～31d間の境界には稜線が存在する。各稜線のホルダ上方部分には、ミシン目で構成される易破断領域35a～35dを設けている。易破断領域35a～35dを設けることで、図5に示したように、両手でホルダを破って、簡単に容器を取り出すことができる。易破断領域は、ミシン目で構成する他にも、多数の細孔から構成する等、容易に破れる領域であれば、具体的構成は問わない。

【0021】

図示の例では、容器ホルダ30は四角筒状に構成されているが、三角筒、五角筒、六角筒、その他の多角形を採用してもよい。容器ホルダを多角形にすると、その中に保持される容器が円筒状の場合に、ホルダ内側の多角形のコーナ位置に隙間ができ、その隙間にスプーン等の付属物を収容できるという利点がある。

【0022】

以上に説明した実施形態では、収容本体20と蓋10とから構成される容器1に対して、別部材として取り付けられる容器ホルダ30を説明しているが、収容本体20、蓋10、および容器ホルダ30の全体で1つの容器として考えることもできる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の容器ホルダが取り付けられる容器を説明する斜視図である。

【図2】 本発明の一実施形態に係る容器ホルダの斜視図である。

【図3】 図1の容器に対して、図2の容器ホルダを取り付けた状態を示す斜視図である。

【図4】 図3の中央縦断面図である。

【図5】 易破断領域を利用して容器ホルダを破断する方法を説明する説明図である。

【符号の説明】

- 1 容器
- 10 蓋
- 11 フランジ
- 20 収容本体
- 21 底部
- 22 フランジ
- 30 容器ホルダ
- 31a～31d 周壁
- 32a～32d 上部ホールド開口
- 33a、33c 折返フラップ
- 34a、34c 底部ホールド開口
- 35a～35d ミシン目(易破断領域)

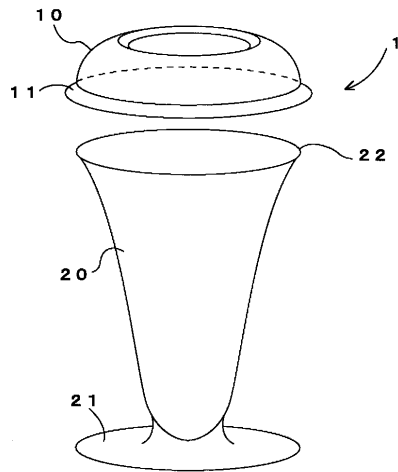
10

20

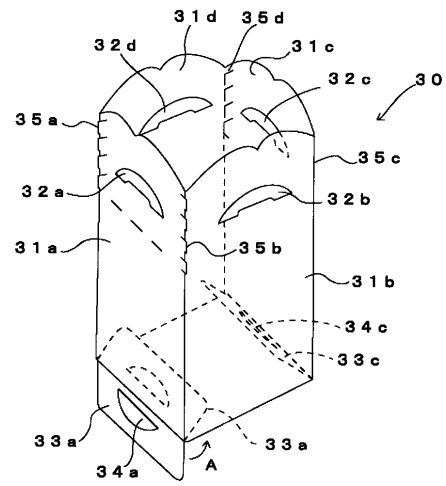
30

40

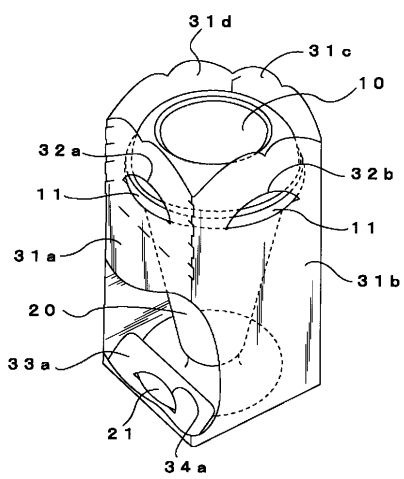
【図 1】



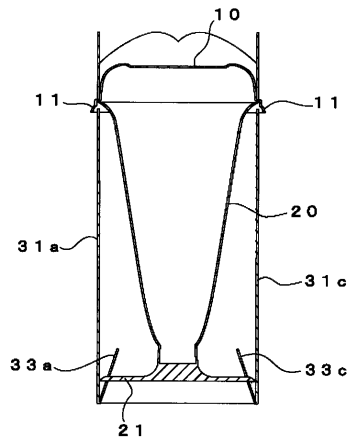
【図 2】



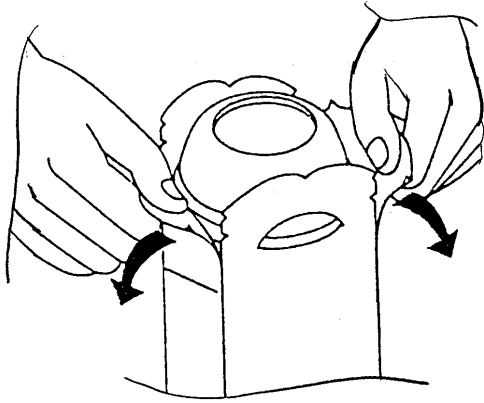
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

(72)発明者 山崎 謙介

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 大日本印刷株式会社内

審査官 石田 宏之

- (56)参考文献 実開昭57-021560 (JP, U)
実開昭57-151270 (JP, U)
実開昭61-134978 (JP, U)
実公昭30-000673 (JP, Y1)
実開昭59-051766 (JP, U)
実開平2-120316 (JP, U)
特許第3363277 (JP, B2)
実開平7-37991 (JP, U)
実開昭60-35080 (JP, U)
実開昭50-146929 (JP, U)
実公昭50-24414 (JP, Y2)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B65D 67/02
B65D 5/04
B65D 5/50
B65D 75/62